

中間試験 (2023.05.26.実施)

はじめに

- 1) 中間試験の意味
 1. 講義理解度を自己点検する
 2. 答案（レポート・論文等）の書き方練習
 3. 成績評価は毎回の講義での試験を重視して行うが、中間試験と最終試験も加味する
- 2) 試験内容
 1. 設問の「1」から「3」は毎回の自己点検で記述する内容と同様
 2. 定期試験内容と同じ形式、今回の試験範囲である労働団体法分野も、定期試験の試験範囲
- 3) 持込許可：許可六法のみ
- 3) 返却：6/1 のみに返却する（それ以外の時間には返却しない）
- 4) 試験時間：30分

問題

以下の①から②の新聞記事のうちから一つを選び、次の点につき答えなさい。

1. 記事において問題となっている労働法上の論点
2. その論点の前提となる法内容の説明
3. その論点に関する諸説
4. その論点に関する自らの見解

注意：1. いずれの記事を選択したのかを明記すること。
2. 出題への解答に直接関係のない事項を記入した場合には、答案を無効と扱う。
3. 採点基準（50点満点で採点する）
a) 設問の1. から4. の項目毎に、基本的には○△Xの三段階評価を行う。
b) ○は必要なことが述べられている場合につけ、10点。
△は不十分にしか述べられていない場合につけ、5点。
Xは何も述べられていない、ないし関係ないことを述べている場合で、0点。
c) 独創的な考えがみられた場合には、各問共に10点の範囲で追加点をつける。

①名古屋芸術大学事件

朝日新聞2018年03月02日付より佐藤が作成

名古屋芸術大を懲戒解雇された元教授2人は17年12月、解雇無効などを求めて提訴した。元教授は大学を運営する学校法人名古屋自由学院の教職員組合の正副委員長だ。訴状によると、元教授は17年10月、教職員用メールアドレスに組合ニュースを投函（とうかん）したところ、就業時間内に組合活動をしたなどとして処分されたと主張している。学院側は請求棄却を求めた。取材に対しては、「訴訟継続中のためコメントできない」と文書で回答した。

②長井市事件

朝日新聞2001年03月13日付より佐藤が作成

行財政改革に伴い、長井市が職員給料の削減を提案している問題で、市職員労働組合は12日、提案の白紙撤回を求めて庁舎内の廊下で座り込みを始めた。トラブルなどはなかったが、この日の労使交渉も平行線で、進展しない場合、市職労組側は16日まで座り込むという。市職労組側によると、市職員は事前に年休届けを出しているため、法律上問題ない、という。市総務課では、「座り込みは地方公務員法で禁止された争議行為だ。年休を取っての座り込みは認められない」との見解だ。